

## 日本における温暖化政策の現状と課題

本研究では、地球温暖化による影響がどういったものであるのかを調査し、それによる、世界的な動きと日本での温暖化問題による課題を明確にした後、社会全体の進むべき方向を検討した。温暖化による影響では森林や生物、海洋環境など地球上の様々な生態系に悪影響を及ぼしている事実が明らかとなったが、それに伴って日本だけでなく世界的にも対策を強化するような政策が時代の流れと共に採択されてきた。大きな転換点としては、1997年京都で開催された京都議定書の採択、そして、2015年に世界200か国を巻き込んで成立したパリ協定である。この2つの政策の決定は各国の温暖化対策に対する取り組みのための指標ともなり日本もこれをもとに温暖化対策を何度も修正・改善していくことになる。日本では、環境問題の進行を受けて1989年5月に地球環境保全に関する関係閣僚会議を設置し以降、地球温暖化対策推進大綱、京都議定書目標達成計画といった多くの企業や政府関係の人々と共に環境問題に対する取り組みを推し進めてきた。課題としては国内だけでなく、国際的にもまだまだ足りないところはあるが社会全体が環境保全を求める方向へ、持続可能な社会に向けて私たちは進むべきである。